

特別支援学校の教員に対する摂食機能に関するWebページと郵送法アンケートを応用した情報共有の試み

A new method of information on education school lunch using mailing and website

○遠藤真美¹⁾，猪俣英理¹⁾，地主知世¹⁾，白田翔平¹⁾，五味悠一郎²⁾，野本たかと¹⁾

1) 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座

2) 日本大学理工学部応用情報工学科

日本摂食嚥下リハビリテーション学会

COI開示

筆頭発表者氏名：遠藤 眞美

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある
企業などはありません。

緒 言

摂食機能に関する学習不足（未学習）や誤学習によって適切な機能獲得が困難な障害児が通う特別支援学校の学校給食では教育職と医療職の医教連携による摂食機能のハビリテーションが求められる。我々が特別支援教育に関わる教職員に実施した調査¹⁾では、給食指導にあたる教員の知識は自身の経験や興味に委ねられている現状に加え、医教連携を希望するものの、その実施率には地域差を認めた。

そこで、全国的な共通理解を促すことを目的に“食事支援における円滑な医療機関と教育機関の連携(医教連携)に向けて”というWebページを作成した。今回、Webページと郵送法アンケートを併用した情報共有を試みたので報告する。

対象および方法

対象は、過去の研究¹⁾において研究協力可能と回答した全国の特設支援学校334校とした。

方法は、Webページに本調査に同意した児童2人の食事場面から作成した基準動画を掲載後、対象校に独自に作成した無記名自記式のアンケートを各10部ずつ郵送した。回答期間は、2021年3月の1ヶ月間とした。質問票にはWebページのURLとQRコードを掲載し、基準動画を閲覧して各児童の捕食、処理時（押し潰し、咀嚼）、嚥下時の舌、口唇、頬などの動きを選択肢で回答する形式とし、最後に本調査に対する意見を記載してもらった。なお、日本大学松戸歯学部倫理審査委員会の承認後（16-009）に行った。

Webページ(<http://spc.ce.cst.nihon-u.ac.jp/>) “食事支援における円滑な医療機関と教育機関の連携(医教連携)に向けて”

基準動画は、保護者から同意が得られた摂食機能に関して医学的支援が必要と考えられる7歳の児童2人の協力を得た。各々が自宅から持参した米飯を食べている様子の撮影動画を用いて捕食から嚥下までの一連動作がわかる約15秒間を抜粋して作成した。

- 動画A：
ダウン症候群，男児，自食，丸のみ
- 動画B：
脳性麻痺，女児，全介助，乳児様嚥下

【Webページ画面】



【QRコード】

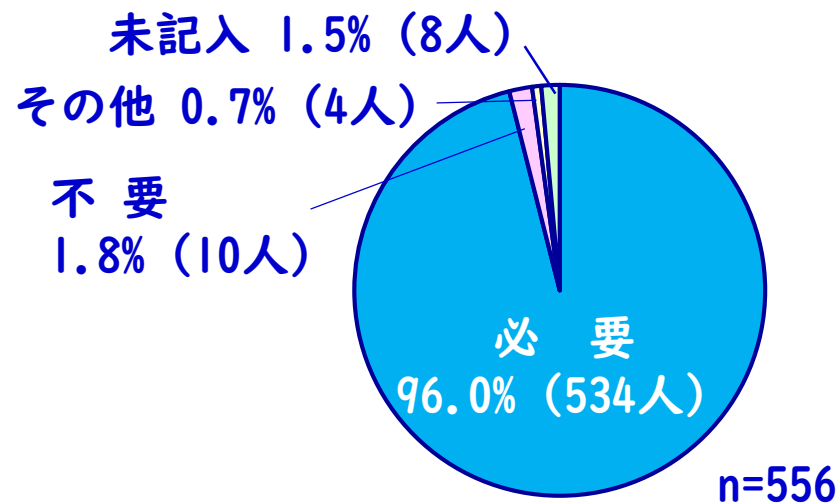


結 果

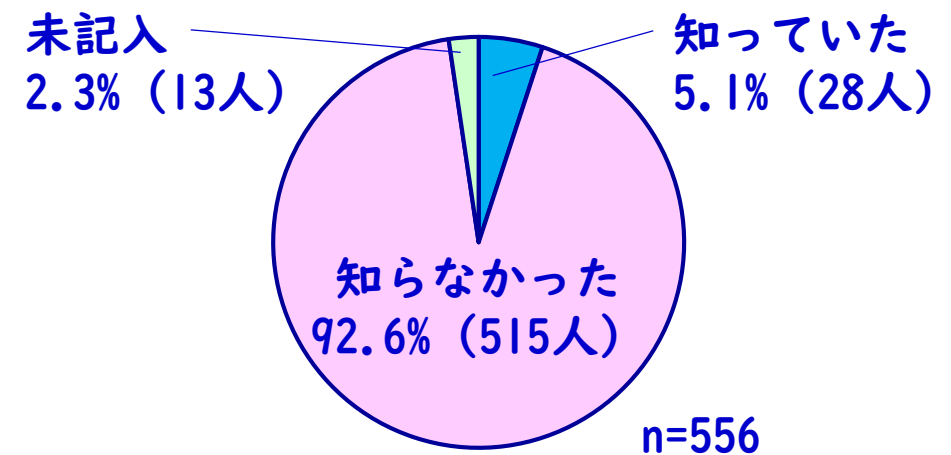
【アンケートの回収状況】

- ・回収率 : 35.0% (117校/334校)
- ・有効回答者数 : 556人

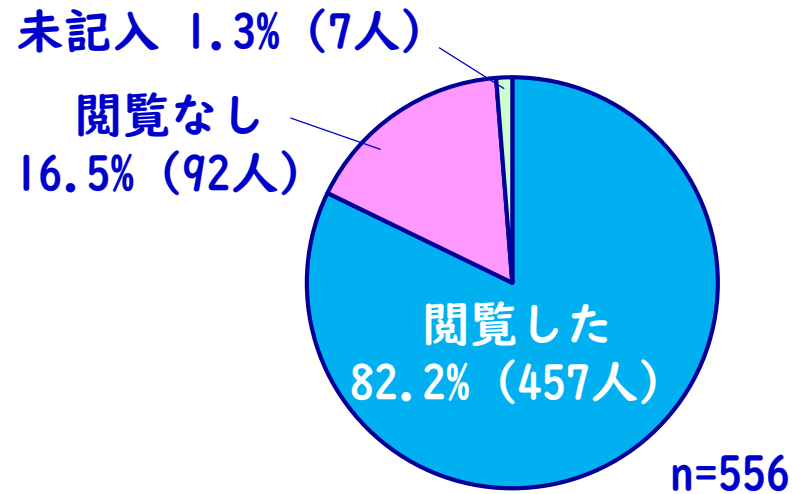
【学校給食で医教連携の必要性】



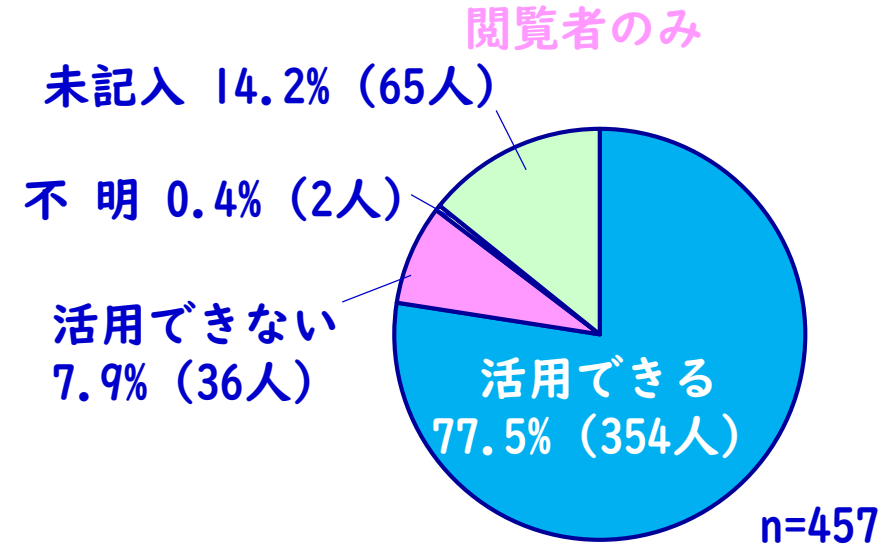
【Webページを知っていたか】



【Webページの閲覧結果】



【学校でのWebページ活用の可能性】

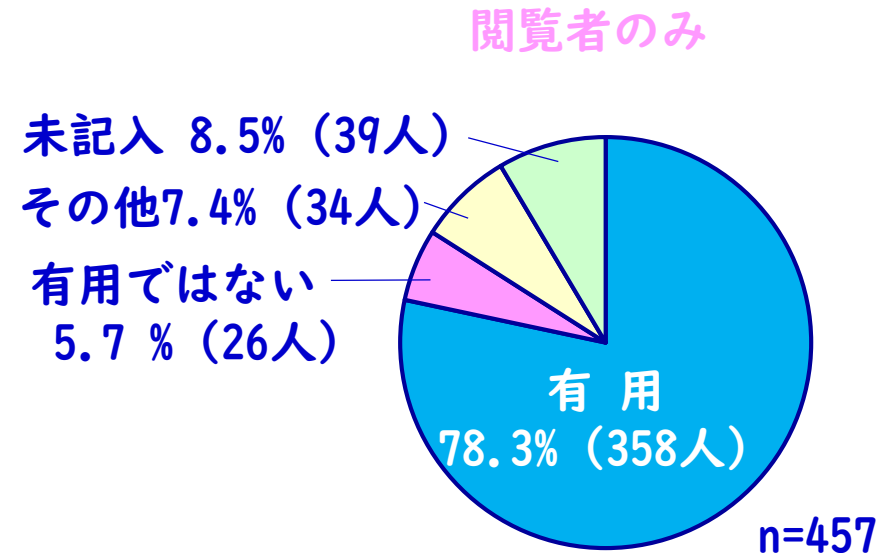


【動画に対するアクセス数】

2021年7月25日時点

- 動画A：783件
- 動画B：733件

【本動画の給食指導に対する有用性】



【本調査を実施方法に対する自由記載内容】

☆調査票について

- ・アンケートを通してポイントを知りながら学べた：3人
- ・アンケートの選択肢が難しい：2人

☆動画について

- ・勉強になった：16人
- ・動画の時間を長くした方が良い：3人
- ・動画は正面だけでなく、他のアングルや口腔内アップなどもあった方が良い：5人
- ・動画を見るだけでは、わかりにくい部分もあった：1人

☆実施方法について

- ・解説が欲しい：15人
- ・できれば研修会を同時に行って動画を供覧しながらの解説講義をして欲しい：3人
- ・動画が見られなかった：12人
- ・動画を開くまでに手間がかかった：2人

【本調査の実施に関する自由記載内容】

- 回答しながらわからない点も多く自身の知識不足を感じた：16人
- 調査自体が学びとなり，協力の機会を頂いたことに感謝：9人
《具体的な記載内容》動画を何度も回答のために見返すので、用語の再確認にもなった。
- Webページ上の動画等を活用して学びたい：7人
- 学校研修で用いたい，他の教員にも知らせたい：4人
《具体的な記載内容》今までは校内の児童生徒の動画で摂食指導の研修会を開催し，教員
独自で学習していたが，このようなサイトがあると本当に助かる。
- 誰もが，どこでも手軽に見れるのが良い：3人
《具体的な記載内容》書籍や講習会はあるが、Webだと手軽に見ながら復習できて良い。
- 本研究結果を見て，もっと学びたい：2人
- 調査自体が勉強になるのでまた，来年度以降も協力したい：2人
- 障害児の摂食指導を専門とされている医療職と連携したくても近隣にいないことも多いので，学校現場のニーズに合致する研究，また，障害児の摂食指導に関わる医療職の拡充を期待したい：1人

考 察

回答者が手元の質問票を確認しながら動画を閲覧することで捕食，咀嚼，嚥下の動きを順に答えるように工夫をしたところ，摂食機能の理解を深められると同時に自身の理解不足などに気付けたなどの意見を認め，調査自体が知識啓発に有用であったと考えられた。

Webページの応用は地域差なく応用可能なことから，今後は本調査結果を詳細に検討し，教育職のニーズに合わせた効果的なeラーニングなどを検討したい。

文 献

- 1) 遠藤真美，野本たかと；特別支援学校における食支援．ヘルスサイエンスヘルスケア，18，65-72，2018.